

新年最初の俳句授業です

令和5年になりました。俳句講師派遣事業も1月11日（水）から再開しました。

11日に訪問した学校は、当日の行事である「鏡開き」についての話から始まりました。「鏡餅って?」「上に乗っているのは蜜柑?」実物や映像を見た子どもたちの目はきらきら。おめでたいお正月には「切る」とは言わないことを知っている子もいました。また、「お節料理」のひとつひとつの由来など、様々な話題が出ました。



まず始めに、俳句作りのために、「初〇〇」の言葉集めをしました。「初詣」「初日の出」「初夢」「書き初め」などは子どもたちがすぐに想起しました。講師からは「初みくじ」「初笑い」「笑い初め」「初がらす」「初すずめ」などを紹介しました。「おみくじは季語ではないけど、お正月に引く『初みくじ』は季語になる。」「普段見慣れているすずめやからすも年が明けて初めて見ると爽やかな感じがするね。」と伝えると、子どもから「いつもはごみ置き場にいるからすも、違うように見えるかも。」という発言もありました。

今回はクラス全員が一緒に経験した活動である「書き初め」を季語に俳句を作りました。『書き初め』は四音。『筆はじめ』にすると五音」ということを確認しました。冬休みの課題で取り組んだり、学校の席書会で書いたり様々ですが、「使った物は?」「どこで書いたの?」「どんなふうを書く?」「うまく書けた?」「あまりうまくいかなかった?」「周りを汚しちゃった?」「近くに誰かいた?」などと講師の声かけに子どもたちは思いついたことをメモしていきました。

みんなが緊張して書いたことが伝わってきた作品になりました。



- 『母さんの視線感じる筆はじめ』
- 『リビングを独り占めして筆はじめ』
- 『筆はじめテレビ気になる手が止まる』
- 『母親の指摘抜群筆はじめ』
- 『書き初めで隠蔽工作小筆かな』
- 『一筆目あっと大声筆はじめ』
- 『体育館先生近づく筆はじめ』

○「書き初め」以外の季語でも自由に作りました。いくつか紹介します。

- 『初みくじかわりに買った宝くじ』
- 『妹がチョコバナナ食う初詣』
- 『ばあちゃんとババ抜きをしたお正月』
- 『凶が出て時もどしたい初みくじ』
- 『獅子舞だカチンとかまれたいい年だ』



今年もいいことがありますように!